

困難抱えた子の学びの場

夜間定時制 7校廃止に反対集会

「夜間定時制高校の存続を求める会」、立川高校定時制同窓会の「芙蓉会」など、東京都教育委員会が進める都立夜間定時制高校の廃校に反対する6団体は5日、豊島区内で都民集会を開き、約60人が参加しました。集会では「都教委の杜撰(ずさん)で強引な夜間定時制の廃校計画は絶対に認められない」とするアピールを採択しました。

立川高校定時制(立川市)の生徒募集の停止、2027年度末の廃校を決定し、さらに小山台(品川区)、桜町(世田谷区)、大山(板橋区)、北豊島工科(同)、蔵前工科(台東区)、葛飾商業(葛飾区)の各夜間定時制高校を26年度からの生徒募集停止を予告しました。都教委は廃止理由に、「小規模化した夜間定時制では、教育効果が十分に得られない」「ことなどを挙げ

ています。

元都立高教員で反対する会事務局の河合美喜夫氏があいさつし、廃校をめぐる経過と10年に及ぶ主な取り組みについて報告。「夜間定時制では少人数を生かした丁寧な学習指導が行われ、アットホームな教育環境のもとで、生徒は授業や部活動、学校行事などに取り組んでいる」と指摘。「困難を抱える多くの生徒が学んでいる夜間定時制こそ、減らすのではなく充実させるべきだ」と訴えました。

今春、都教委が募集停止を行った立川高校定時制では、受け皿として考えたチャレンジスクールの立川緑高校の入試倍率が2・38倍となり、242人が不合格になりました。河合氏は「生徒の進路が心配で、緊急措置として立川高校定時制の生徒募集を実施するよう求めたが、都教委は一顧だになかった」と批判しました。

元学長)がコメント。新自由主義の教育政策のもとでの中等教育の状況について触れた上で、「夜間定時制を守るたたかい(貧困と格差を生む)新自由主義政策に抗する運動であり、社会を変えていく運動でもある。あらためて夜間定時制の教育的意義について考えていきたい」と述べました。

集会には日本共産党の白石たみお、斉藤まりこ、藤田りょうこの各都議が参加し、都議会での論戦を紹介。定時制高校出身の白石都議は「定時制高校の廃校は学ぶ権利の切り捨てになる。都議選で争点化し、中止のために全力をあげる」と表明しました。

「小山台高校定時制の廃校に反対する会」代表で、元定時制教員の多賀哲弥さんが行動を提起。▽6月都議会に向けて生徒募集継続を求める請願署名の取り組み強化▽都教委に地域での説明会開催を求める▽6月の都議選候補者への働きかけなどを呼びかけました。

署名用紙のダウンロードは「都立夜間定時制情報局」から(QRコード)。

会場からの参加者も発言。それらを受けて太田政男さん(大東文化大学



夜間定時制の存続をと訴えた集会＝5日、豊島区

8人がリレートーク。板橋区の小中一貫校を考える会の女性は「不登校の子が急激に増えてい

る。そういう子は自宅の近くに学校がないと通学できない。区内の2校が廃校になるので、存続を求める会を立ち上げ署名などに取り組みたい」と表明。

